

夢

の 舞台

へ

山県市出身の大橋朋花選手(近畿大学洋弓部3年)が、アーチェリーで東京オリンピック最終選考会に挑もうとしています。この大会を勝ち抜くと、山県市初のオリンピック選手になります。今回、特別に大橋選手に大会に向けての意気込みや子どもたちへのメッセージをいただきました。最終選考会は来年3月20日と21日に行われる予定です。みんなで大橋選手を応援しましょう。

企画画財政課 TEL22-6825



アーチェリーは心の対話

10月14日、奈良県生駒市にある近畿大学洋弓場で、大橋朋花選手にインタビューしました。

● ○ ●
アーチェリーはどういうきっかけでいつ頃始めましたか

中学生から始めました。私は聖マリア女学院中学校に行きましたが、部活のオリエンテーションでアーチェリーに興味を持って入部を決めました。もともと体を動かすことが好きで、新しいことに挑戦したいと思っていたので、ぴったりだったのかもしれない。



はじめからアーチェリーをやるうと思って進学した訳ではないんですね——

そうですね。おもしろそうと思って入ったのが今日まで続いています(笑)

アーチェリーの世界で勝負していいこうと思っただのはいつからですか——

アーチェリーをやるうと思って中学に入った訳ではなかったのですが、最初は部活動として楽しくやっていました。それでも、アーチェリーの奥深さにはまっていく中で、中学2年生の時に全国大会に出場しました。しかし、そこではまったく通用しなくて。全国にはたくさんすごい人がいるんだと思って、そこから競技としてアーチェリーに向き合うようになりました。そして、3年生の時に出場した全国大会の予選で日本新記録を出して決勝に進んだんです。結果は3位だったんですが、そこが分岐点になったのかなと思います。

負けず嫌いな一面があるんですね——

アーチェリーは心の対話だと思っています。個人競技になるので、集中力が非常に大切になってきますし、自分との戦いでもあります。自分自身と心で対話し競技に向かいます。そうすると、新しい自分に出会えることもあるので、よりアーチェリーを楽しむことができ、好きになっていきます。

刺激のある毎日

勝負の世界は大変なことも多々あるかと思えます。大切にされていることや座右の銘などありますか――

「アーチエリーは撃たないと分からない」という言葉です。これは、とにかく練習をする、練習の鬼になるということ、今でも大切にしている言葉です。近畿大学では、川中香緒里選手や古川高晴選手など、実際にオリンピックでメダルを取った選手から指導を受けることができました。自分自身を成長させてくれる環境が整っており、本当に感謝しています。



練習施設も日本一と聞きました。はい。施設だけでなく、監督やコー



チ、一緒に練習をする仲間も高い意識を持って競技に取り組んでいるので、ここでは一切妥協は許されません。毎日刺激を感じながら練習に取り組んでいます。本当に恵まれた環境にいると感じています。

支えてくれた方々に感謝

過去の広報やまがたに載っている大橋選手の記事を見ていたら、夢は東京オリンピックでメダルを取るとありました。その舞台が手の届くところまで来ています――



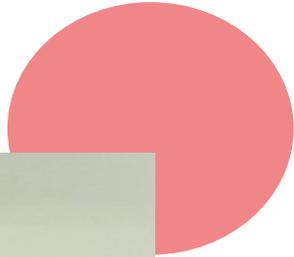
ずっと目標にしていたので、ようやくここまでたどり着けたなど感じています。ここまでこられたのは、自分の力だけでなく、9年間自分を支えてくださった、先生や家族、仲間やコーチなど多くの人のおかげだと感謝しています。

ここまで来たら、もう自分がオリンピックの舞台に立つんだという強い意志を持って最終選考に臨みたいと思います。そのためにも、残された時間、精いっぱい練習をしていきます。



大橋選手を応援している山県市民に一言――

いつも応援ありがとうございます。皆さんの応援があって今まで頑



張り続けることができました。オリンピックに向けて精いっぱい頑張りますので、これからも応援よろしくお願ひします。

山県が大好き

ここで少し話題を変えます。山県市での思い出は――

私は高富小学校に通っていましたが、休み時間や放課後に友達と運動場でドッジボールをしたり、友達と自転車でいろんなところを回ったりしたことが思い出に残っています。

山県市の好きなところは――

自然豊かで空気がおいしいところです。今でもよく山県には戻って

ますがやっぱり落ち着きますね。今日も、一緒に車に乗って山県に連れて行ってほしいくらいです(笑)



山県が大好きなんです(笑)オフの日は何をされていますか――

外に出るのが好きなので、友達と買い物や食事に行ったりフレッシュしています。アーチエリーはすぐ集中力が必要な競技なので、モチベーションを維持するためにも、オフはしっかり楽しむようにしています。



心の落ち着かせ方は――

呼吸方法などありますが、まずはいつもどおりのリズムでいることがポイントです。また、どれだけ練習



をやったかが自分の自信につながる
ので、大会に平常心で向かうため
もやはり日々の積み重ねが大切だ
と思います。

好きになることが大切

これから大橋選手を目標にする
子どもたちが出てくるとしま
す。子どもたちに向けて一言お
願いします——

アーチェリーに限らず、何か頑張
りたいことがあれば、まずはそれを
好きになってください。つらくても
好きであれば頑張れます。それに好
きだから続けることもできます。誰
よりも好きなんだというものを一つ
でもいいので作ってください。

大橋選手 これまでの主な競技成績

	大会	成績
2020年	全日本学生個人選手権大会	優勝
	第20回全日本学生アーチェリー室内個人選手権大会	2位
	第29回全日本室内アーチェリー選手権大会	3位
2018年	ヨーロッパグランプリ・ソフィア大会	団体2位
	ワールドカップ・ソルトレーク大会	団体3位
2017年	2017年世界ユース選手権大会(アルゼンチン)	個人33位、団体6位
	平成29年度全国高等学校総合体育大会	個人・団体 優勝
2016年	平成28年度全国高等学校総合体育大会	5位
	2016希望郷いわて国体	個人優勝、団体6位
2015年	第62回東海高等学校総合体育大会	優勝
2014年	全日本中学生アーチェリー選手権大会	3位

アーチェリーって どんな競技？

アーチェリーは、70m離れた的に向
かって矢を放ち、矢が刺さった場所
によって得点や勝敗が決する競技です。
的の直径は122cm。的に当たった
場合の得点は最高で10点、最低は1
点で、外れた場合は0点になります。
1セット6本の矢を放ち、それを
12セット行います。最高は720
点です。これを2回行うことから、
一試合で144本の矢を放つこと
になります。



取材を終えて

素朴で可憐な大橋選手ですが、芯
がしっかりとした方で、とても礼儀
正しく、笑顔でインタビューに答え
ていただきました。

一見普通の大学生ですが、話をす
る中で、アーチェリーに対する熱い
気持ちやひたむきさが垣間見え、つ
い引き込まれてしまいました。これ
がオリンピックを目指すアスリート
なのかと圧倒されました。

ぜひ、夢の舞台に立つ大橋選手を
見てみたいと心から感じました。そ
の時はまた取材させていただきますね！